

令和3年度 茨城県産地パワーアップ事業の評価（令和2年度の実績評価）

地域協議会名	地区名	対象品目	成果目標	成果目標						価格補正後の実績	達成率 (%)	都道府県の評価	
				現状		目標		実績					
				年度		年度		年度					
茨城町 農業再生協議会	茨城町	メロン	画像処理システムとカメラセンサーを備えた新たなメロン選果施設の導入及び、適正な熟期での出荷販売を可能とする、出荷ダンボール箱に出荷日を印字する新型封函機の導入により、集出荷コスト削減に取り組む。	集出荷コストの10%以上の削減	H29	4,487円/t	R2	4,016円/t	R2	3,267円/t	—	259.0	目標を達成しており良好である。引き続き、メロン生産者の所得向上に必要な支援を行っていく。
鉾田市 農業再生協議会	鉾田市	施設野菜(作物:こまつな、ほうれんそう、みずな、ベビーリーフ、レタス)	生産量の安定化と品質向上のため真空予冷庫、保冷庫、パイプハウスの導入	販売額の10%以上の増加	H28	2,071,013,511円	R2	2,549,398,693円	R2	3,023,974,963円	3,472,502,627円	293.0	事業を実施した結果、産地の規模拡大が進み、作付面積、生産量ともに増加した。また、販売も順調に進んだため、成果目標を大幅に達成することができた。
古河市 農業再生協議会	古河市、猿島郡境町、結城郡八千代町、坂東市、筑西市	ベビーリーフ、小ねぎ	新規品目の産地形成、経営拡大のための施設(パイプハウス)及び農業機械の導入	販売額の10%以上の増加	H27	小ねぎ 0円 ベビーリーフ 66,220千円 (計66,220千円)	R2	小ねぎ 45,792千円 ベビーリーフ 72,380千円 (計 118,172千円)	R2	小ねぎ 39,137千円 ベビーリーフ 99,000千円 (計138,137千円)	—	138.4	小ねぎでは、生産量及び販売額が未達成である。有機栽培を行なっている取組主体1軒で病害虫が多発し、生産量が落ち込んだことが原因のため、普及センターと連携して栽培上の細やかな指導支援を行っていく。 ベビーリーフでは、販売単価以外の成果目標は順調に達成している。今後は、高単価での契約を見込めるよう品質・量ともに安定した生産を行えるよう指導していく
行方市 農業再生協議会	行方市	葉物野菜	施設葉菜類の周年出荷・安定供給体制強化を図るための施設(低コスト耐候性ハウス:1棟・3,937.5㎡、パイプハウス:116棟・32,796㎡)及び農業機械(自動選別システム、自動包装機等)の導入	販売額の10%以上の増加	H28	720,931,407円	R2	800,401,905円	R2	843,248,185円	988,510,872円	336.7	一部の取組主体で台風被害を受けたため、目標面積には達しなかったが、産地全体としては規模拡大が進み、また、収量や品質が向上したことで、成果目標を達成することができた。 今後は、未達成の取組主体に対し、台風被害からの復旧を支援するとともに、出荷量が確保できるよう、目標達成に向けた取組の支援を行う。

八千代町 農業再生協議会	八千代町	秋冬はくさい、春はくさい、キャベツ、レタス、ねぎ	生産・出荷の安定化及び販路拡大を図るため、品質・鮮度を保持できるコールドチェーン体制を構築した新たな集出荷貯蔵施設の整備	販売額の10%以上の増加	H26-H28の平均	2,723,852,768	R2	3,061,525,605円	R2	2,696,484,222円	4,678,645,818円	578.9	新型コロナウイルスの影響で、業務用需要を中心に低迷した。集出荷施設の整備により、生産者の作付面積が順調に拡大でき生産量も問題なく増加し、面積、出荷量は目標を概ね達成できた。販売金額・単価について、価格が低下したものの、実績は目標値を超える額（補正後）となった。今後も継続して、面積、出荷量の維持・拡大と販売金額の向上に向けた取組を支援していく。
つくば市 農業再生協議会	谷田部	キャベツ	キャベツを安定的に供給できる産地の育成及び面積拡大に伴い、新たに集出荷貯蔵施設（農業用冷蔵庫）を整備する。	販売額の10%以上の増加	H29	409,460円/10a	R2	454,821円/10a	R2	353,535円/10a	—	-123.3	新型コロナウイルスによる業務需要の減少を見込み作付面積を減らす等、単価を維持するための努力が見られたが、病害や低温等の影響で可販率が低下し、売上は伸びなかった。品種選定や作期調整等の技術的な支援を行い、面積・収量・売上増を図っていく。
常陸太田地域 農業再生協議会	常陸太田市	そば	適期収穫による収量及び品質の向上を図るため、収穫機（コンバイン）を導入する	10aあたり販売額の10%以上の増加	H26-H28の平均	4,172円/10a (H26-H28の平均)	R2	4,590円/10a	R2	21,758円/10a	—	4,207.2	適正な栽培管理と生育期～収穫期の天候に恵まれたため、単収（目標対比2.6倍）及び子実品質が良好であったことから、目標を達成することが出来た。
茨城町 農業再生協議会	茨城町	加工用馬鈴薯	増産の要望に対応した収穫機械の導入により、出荷量を4,866t→5,366t(500t増)に増加する。	販売額の10%以上の増加	H29	261,570,000円	R2	288,450,000円	R2	258,402,858円	—	-11.8	今年度は価格面で目標達成できなかったが、前年度は目標を達成できていたことから、今後は目標達成できるよう経営普及部門の協力を得て品質向上に向けた支援・指導を行う。
筑西市 農業再生協議会	関城地区	ねぎ	生産・出荷を効率化する高性能機械の導入により、単位面積あたり販売額の増加を図る。	10aあたり販売額の10%以上の増加	H29	760,284円/10a	R2	836,613円/10a	R2	889,156円/10a	787,794円/10a	36.0	機械導入により作付面積、出荷量は順調に拡大し、目標年度の単価も良く販売額が向上し目標を達成した。10aあたりの収量は向上しているものの、目標に達していないため、現状の作付面積を維持しつつ、収量向上にむけ適切な栽培管理による出荷量の増加に向けた支援を行っていく。